

教育委員会だより

令和7年1月30日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

今年も大盛況!! ～ふるさと多治見しごと塾～

教育研究所が主催する土曜学習講座は、多治見市の伝統や文化、産業などについて体験的に学ぶ機会として子どもたちに大人気の講座となっています。中でも『ふるさと多治見しごと塾』は、多治見ロータリークラブ様との共催事業として実施してきました。昨年度は『将来マナビジョン』と題して、多治見 RC 様が主催し、セラミックパーク MINO を会場に例年よりもかなり大規模な形で開催しました。本年度は通常開催を予定していましたが、三菱 UFJ 銀行様のご厚志もあり、昨年度並みの規模で『将来マナビジョンⅡ』として開催できました。

会場には、多くの民間企業や市役所関係のブース 30 以上が並びました。子どもたちは、自分で選んだ仕事を体験し、専用通貨『うながっぱ』を給料として受け取ります。別のブースでは、その専用通貨を使って遊びや買い物を楽しみます（今風なブースとしてふるさと納税も登場!）。子どもたちは、手元の専用通貨の枚数を確かめながら「よし、ここで3枚使おう!」「あと2枚しか残っていないから仕事をしないと!」などいいながら、“子どもが主役のまち”で生活しました。

会場内で何人かの子どもに感想を聞いてみました。「いろいろなお仕事があって楽しい!」「うながっぱ券を使うばかりだと無くなってしまうから、お仕事をすることも大事だと思った。」「たくさんお土産がもらえて良かった。」「お店の人たちがとても優しく教えてくれて嬉しかった。」「来年もあったら、もっと違う仕事もしてみたい。」などなど、どの子も目を輝かせながら話してくれました。

午後からの開催でしたが、約 300 名の子どもたちが参加してくれました。様々な職業に触れる体験を通して、イベントを楽しむだけでなく、働くということ、将来への夢や希望を抱くということにおいても有意義な時間を過ごすことができました。大盛況のうちに会を閉じましたが、来年度以降もさらに工夫し、多治見の将来を担う子どもを育てていきます。



真摯な取組への評価 ～各学校・個人への表彰～

この時期になると、各学校や個人の優れた取組に対する表彰の機会が多くなってきます。ここで、いくつか紹介したいと思います。

□岐阜県教育委員会『岐阜県ふるさと教育表彰』

「清流の国ぎふ」を担う子どもたちを育成する一環として、ふるさとの魅力や課題を知る学習、地域課題を探究する学習における優れた実践を顕彰。

・市之倉・小泉・滝呂の3小学校が、優秀賞を受賞。市之倉小は、2年連続。

□東濃地区教育推進協議会『学校図書館教育賞』

東濃地区の市立小・中学校における学校図書館を利活用した教育活動を顕彰。

・昭和小学校が「管理運営部門」において優秀賞を受賞。5年連続の応募。

□文部科学省『優秀教職員表彰』

全国の国公私立学校において、学習指導等、学校教育における優れた成果を上げた教職員を顕彰。

・平和中学校 木股純子 教諭が受賞。英語・外国語教育における実践。

□多治見市教育委員会『教育実践論文表彰』

教育の基本的な課題を踏まえ、幼稚園、小・中学校の教育現場に密着した継続的・累積的な研究実践を顕彰。

・【最優秀賞】一般の部 精華小学校 土屋孝政 教諭（図画工作科）

新人の部 養正小学校 大澤歩水 教諭（学級経営）

・この他に、優秀賞4名、優良賞6名、佳作8名の先生方が受賞。

どの表彰においても、学校や個々の先生の「よりよい学校に!」「地域の学校の具現に!」「もっといい授業ができる教師に!」「子どもの学びの充実を!」といった熱い思いが根底に流れる真摯な取組であることは共通していました。学校教育に対する願いや課題を明確に捉え、その解決に向けた道筋を自ら描き、日々の実践の中で試行錯誤を繰り返しながら子どもの姿に成果を求める。そして、自身

を振り返るために書きまとめ、教師自身が学び続ける。この尊い歩みが評価され、この度受賞された学校・先生方にお祝いを申し上げますとともに、教育実践の益々の充実に大きく期待しています。

←優秀教職員表彰及び実践論文表彰式

(1/28 とうしん学びの丘エールにて)

